

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.39
(通知版)

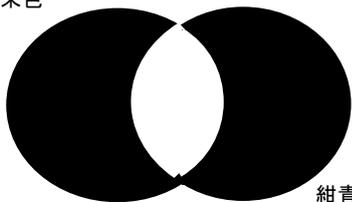
일한 시민 네트워크·나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行 者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色

目次



紺青

1. 事務局通信 _____ 統括幹事：後藤和晃
2. 会の活動報告とお知らせ _____ 事務局
3. 会員の広場 _____ 会員の皆さん

◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

◎ “留学生を励ます集い” を開きます!!

～ 日韓 “学生・市民” 交流の夕べ ～

会が発足して今年で 10 年目です。その 10 年目の年の暮れも、例年通り韓国人留学生たちを名古屋韓国学校に招いて励ます集いを開きたいと思えます。会員の皆様のご支援や当日の参加を心からお願いします。交流の集いの開催要項は次の通りですので、よくお読みください。



記

- 行事 第 10 回日韓 “学生・市民” 交流の夕べ
- 日時 2007 年 12 月 16 日 (日)、17:00～19:40
- 場所 名古屋韓国学校 2 階教室
※ 地下鉄亀島駅 2 番出口から徒歩 2 分
- 内容 食べて飲んで対話し、合唱もして心を通わす集いです
※ アリランの他、故郷、上を向いて歩こうなども歌う予定です。
- 参加確認 会報に同封のアンケートハガキで参加など確認します
- 参加費 会員・一般成人 3500 円 大学・高校生 2000 円
小中学生 500 円 留学生 1000 円、幼児等は無料
※ 会員の参加費は、お手数ですが、同封の振込用紙で郵便局から会の口座に振り込んで頂くようお願いいたします。
※ 口座名 日韓市民ネットワーク・なごや 00830-4-36485

“交流の夕べ”への寄付のお願い

会員の皆さんには、例年なるべく多くの留学生を、交流の夕べに招待できるよう、小額のご寄付をお願いしています。頂いたお金で交流の集いの内容を、より充実させ、さらに留学生たちのくじ引きの賞品も購入します。500円、1000円という額で十分ありがたいので有志の皆さんは、アンケートハガキにご記入の上、前述の振込用紙で会の口座宛お送りください

◎ “百済再発見紀行” 実施へ

10月実施予定を12月に移した“百済再発見紀行”を12月7日（金）から10日（月）まで3泊4日で行います。今回は、百済の終末期の文化が栄えた益山（イクサン）や扶余（プヨ）、それにソウルに残る百済史跡を、韓国人の考古学の教授の同行・解説で廻るという大変恵まれた形での紀行となります。

折りしも10月には扶余の王興寺跡から、古代三国時代でも最古という鎮壇具（塔の礎石に納められるもので釈迦の骨を入れた金製、銀製の舍利器などを含む）が完全な形で出土し、百済史はおろか韓国史をゆるがす大ニュースと喧伝されました。私たちのグループはまさしく、そのニュースの現場を訪れるわけで、紀行への期待が一層ふくらんでいます。

なお、今回の参加者は24名、うち2名は関西から、1名は関東からの参加です。



◎ 会報（通知版）の発行について

今回の会報39号は、いつもの会報より内容をぐっと少なくした（通知版）の形でお届けしています。この措置は、これまで10年にわたって、年間に4回も20ページ前後になる会報の編集にあたってくれた担当者の負担を少しでも軽くしようとして行ったものです。

そのため定形化していた巻頭言やソウル便りなどは省略し、行事のお知らせや実施報告などを主眼とした内容に絞ってお伝えするものです。

今後も年間に少なくとも一度は会報をこのような通知版の形で発行する予定ですので、宜しくご了解ください。

◇ 会の活動報告とお知らせ

1. 報告

1) 日韓・大自然の森に大集合

～ 犬山市・八曾自然休養林 ～

10月27日（土）、犬山市の八曾（はっそう）自然休養林で韓国の留学生（名大、名工大、日本語学校等）を招いて、“日韓・大自然の森”の行事を実施しました。

この催しは韓国でいえば野遊会（ヤユフェー）、日本でいえば芋煮会のイメージで、日韓の学生や市民が大自然の中で秋の味を楽しみながら、交流を深めようと毎年行っているものです。

この日、10月27日（土）は、午前から午後まで雨が降り続いた、あいにくの天候でしたが、留学生27名を含め、およそ50人が爽やかな自然の中で秋の味と対話を楽しみました。ちなみに、この日の美味は当会顧問の李尚勲さんの奥さんお手製のチジミをはじめ、われらが料理長中川幹事がてがけた肉と海鮮の鉄板焼き、串焼き、いも煮、メウンタン（辛い汁物）、カレーラ

イス、サラダバー、果物等々でした。酒類もビール、日本酒、焼酎、どぶろく等、飲みきれぬほど用意しました。

参加者は1~2歳の幼児から、86歳の長田竹子さん（戦前に公州で生まれ大田の高等女学校を卒業、敗戦後帰国）まで年齢は多彩でしたが、皆お腹いっぱい食べて飲んで、時に合唱を楽しみました。曲名はアリランや日本の故郷（ふるさと）や七つの子で、50名の歌声が雨音を消してしまうほど盛り上がっていました。



写真は、トタン屋根の下で雨をよけながら写した集合写真です。

2.お知らせ

1) 二日市壮さんが北海道でブログ開設！



二日市さんは会の発足当時から昨年まで永い間、ソウル便りを担当していただいた方であることは皆さんご存知ですね。その二日市さんは元来は九州出身の方ですが、奥さんの出身が北海道で、帰国後は北海道の弟子屈（てしかが）町に新居を構えておいでです。大自然の中で悠々自適の暮らしを送っておられますが、このほどブログを開設されました。北海道の折々の自然をダイナミックに捉えた写真が掲載されていますので、皆さんもぜひブログをのぞいてみてください!!

<http://kussharo.blog109.fc2.com/>

2) 新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、1月26日までに受付完了されている方々です。（敬称略）

金山栄子	酒井正宏
------	------

회원 마당
会員の広場



◎ 時調（しじょ）

会員：瀬尾文子

時調（しじょ）とは、コリア（韓国・朝鮮）固有の三章から成る定型詩です。高麗時代の末期を生き残った漢学者たちが漢詩を作る余技に、詩余と称して、より国語的な詩歌として生み出したのが時調とい

えるでしょう。

13 世紀の高麗時代から今日まで数え切れないほどの時詩が作られました。ここでは最古の作品 1 点と現代の作品を 2 点、紹介しましょう。

○老い 禹倬（ウタク）

※高麗朱子学と高麗易学の始祖

片手には茨(いばら)を持ち また片手には棒を握り
老ゆる道を茨に防ぎ 来る白髪を打たんとしつ
白髪は 我が意に先んじ 近道より来ていたり

老いの嘆きを明るくユーモラスに詠んでおり、遊びの要素が強い作品です。

○冬の山鳥は 金南煥（キム・ナムファン女性） 現代の詩人

厳しい冬のさなか 寂しい小径(こみち)を辿れば
不意に耳に染みる 澄みとおる啼声
青い夢を残して去った君 山鳥になり来ているのか

1950 年、大学の入学式を目前に南進してきた北軍に曳行され、数え年わずか二十歳で生涯を閉じることになった恋人への忘れられない想いをうたい込んだ詩です。青い夢とは幸せだった時に二人で語り合った理想の家庭か。

○ある日の思い 金峻（キム・ジュン） 現代の詩人

風が吹き 霜の降る 寂しい落ち葉の道を
妻とただ二人だが 手を繋(つな)ぎ歩くのが
いかに難しいことか 年を取り解ったなあ

老いらくの或る日を詠っています。晩秋の道を夫婦で歩いているうち、ふと心が若返り、妻と手をつなごうとしたら「何よ！年がいもなく」と断られた様子が目に浮かびませんか？

古典的な作品から、現代に生きる人々の心の諸相を伝えるものまで時調の世界は奥深く魅力的です。ぜひ関心をお持ちください。

※事務局注

三篇の翻訳は全て瀬尾さん自身の手によるものです。今後も時々、瀬尾さん訳の時調を紹介します。

編集後記
(2007/11/7)

会報 No. 39 をお届けします。今年も残り僅かとなってきました。一年間、皆さんにもいろいろな変化があったことと思います。私自身も年初には思いもよらないような毎日を最近は過ごしています。前任の会報編集者野村哲さんの頃にも無かったと思われませんが、今回、会報の印刷日に編集者不在の状況で作業が行われます。かなり以前から私のスケジュール調整が難しくなっていたので、いろいろな事態を想定して前々回の会報印刷の頃から、印刷作業は他の人でもできるように準備してきました。そんな中で生まれた会報 No. 39 号、これまで通り皆様の所に無事に届いていることと思います。

池貴巳子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1994 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp

